

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-41989

(43) 公開日 平成 6 年 (1994) 2 月 15 日

(51) Int.Cl.⁵
E 0 2 D 27/44

識別記号 庁内整理番号
B 7014-2D

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 1 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平4-195724

(22) 出願日 平成 4 年 (1992) 7 月 23 日

(71) 出願人 000233398

日立造船エンジニアリング株式会社
大阪府大阪市此花区桜島 1 丁目 4 番 6 号

(72) 発明者 植野 昭二

大阪府大阪市此花区桜島 1 丁目 4 番 6 号
日立造船エンジニアリング株式会社内

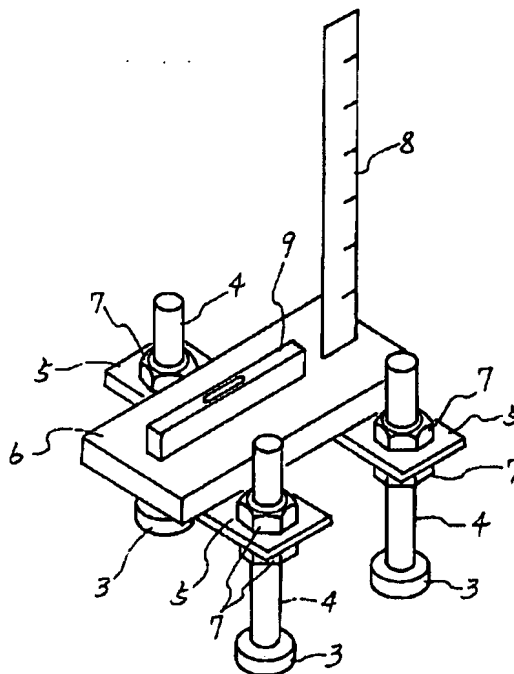
(74) 代理人 弁理士 森本 義弘

(54) 【発明の名称】 基礎金物の設置工法

(57) 【要約】

【構成】 基礎側に打込用金具 3 を介して基礎ボルト 4 を固定し、次にこの基礎ボルト 4 に、ライナープレート 6 に固着された位置決め板 5 の穴部内を挿通させるとともに、この挿通された位置決め板 5 の上下を一对のナット 7 により基礎ボルト 4 側に挟持させ、次にこのライナープレート 6 をグラウト材 12 により固定する工法である。

【効果】 位置決め板の上下をナットにより締め付けることにより、ライナープレートを基礎ボルト側に固定するようにしたので、ナットを微調整することにより、ライナープレートの高さ、水平度などを容易に調整することができ、またライナープレート自体は基礎ボルトに固定されることになるので、グラウト材から浮き上がるのを防止することができる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】基礎金物を設置する位置に対応する箇所の基礎に穴を形成し、次にこの穴に基礎ボルト固定用の固定金具を配設し、次にこの固定金具に基礎ボルトを固定させ、次にこの基礎ボルトに、基礎金物に固着された位置決め板の穴部内を挿通させるとともに、この挿通された位置決め板の上下を一对のナットにより基礎ボルト側に挟持させ、次にこの基礎金物をグラウト材により固定することを特徴とする基礎金物の設置工法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、例えば機械装置などを据え付けるための基礎金物の設置工法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、この種の基礎金物（以下、ライナープレートという）を設置する工法としては、図5および図6に示すようなものがある。

【0003】図5に示す工法は、まずライナープレートを設置する場所に、基礎51から基礎ボルト52を突設しておき、次にライナープレート53を特殊な形状の吊り金具54にボルト55を介して取り付ける。

【0004】そして、このライナープレート53が取り付けられた吊り金具54を、上記基礎ボルト52に、ダブルナット56を介して吊持するとともに、このダブルナット56により、ライナープレート53が所定位置でかつ水平となるように調節した後、型枠57を設置するとともにこの型枠57内にグラウト材58を流し込んで固定し、さらにその後、基礎ボルト52の突出部を切断するとともに、ボルト55を外してライナープレート53から吊り金具54を離脱させることにより、ライナープレート53の設置が行われていた。

【0005】また、図6に示す工法は、基礎61上に、堅めのグラウト材62を一層ごとに突き固めて所定厚さになし、そして最後にライナープレート63を載置し、水準器で測っては、ハンマーでライナープレート63の適所を叩いて、その水平度を出していた。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記の各工法によると、ライナープレートは、グラウト材に単に付着しているだけであり、付着部分が外れると、ライナープレートがグラウト材上に浮いてしまい、設置精度を維持することができないという問題があった。

【0007】また、特に、後者の工法においては、ハンマーでライナープレートを叩いて、その高さ、水平度などを調整しているため、その調整が非常に難しいという問題もあった。

【0008】そこで、本発明は上記問題を解消し得る基礎金物の設置工法を提供することを目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するた 50

2

め、本発明の基礎金物の設置工法は、基礎金物を設置する位置に対応する箇所の基礎に穴を形成し、次にこの穴に基礎ボルト固定用の固定金具を配設し、次にこの固定金具に基礎ボルトを固定させ、次にこの基礎ボルトに、基礎金物に固着された位置決め板の穴部内を挿通させるとともに、この挿通された位置決め板の上下を一对のナットにより基礎ボルト側に挟持させ、次にこの基礎金物をグラウト材により固定する工法である。

【0010】

10 【作用】上記の構成によると、基礎側に固定された基礎ボルトに、基礎金物に固着された位置決め板の穴部内を挿通させるとともに、この位置決め板の上下をナットにより締め付けて、基礎金物を基礎ボルト側に固定するようにしたので、上記ナットを微調整することにより、基礎金物の高さ、水平度などを容易に調整することができる。

【0011】また、基礎金物自体は基礎ボルトに固定されることになるので、グラウト材から浮き上がることはない。

20 【0012】

【実施例】以下、本発明の一実施例における基礎金物の設置工法図1～図4に基づき説明する。

【0013】まず、図1に示すように、基礎金物（以下、ライナープレートという）を設置する位置のコンクリート製の基礎1の表面に凹凸を形成しておくとともに、基礎ボルトの打ち込み箇所に所定径の穴2を例えば3本形成する。

30 【0014】次に、図2に示すように、上記各穴2内に、基礎ボルトの打込用金具（固定金具の一例で、例えば、商品名；ホールインアンカーなどが使用される）3を打設した後、これら各打込用金具3に基礎ボルト4をそれぞれねじ込む。

【0015】次に、図3に示すように、その周囲三箇所から穴付きの位置決め板5が突設されたライナープレート6を、その位置決め板4の穴部内を上記基礎ボルト4が挿通するようにして、基礎ボルト4の所定位置に上下一对のナット7により仮固定する。

40 【0016】次に、このライナープレート6の上面にスケール8および水準器9を載せて、そのスケール8を計測器（図示せず）で測定して、ライナープレート6が所定高さとなるようになし、かつ水準器9により、ライナープレート6の水平度を出した後、ナット7を締め付けて、ライナープレート6を正確な位置に固定する。

【0017】次に、図4に示すように、基礎ボルト4の不要な突出部分を切断するとともに、このライナープレート6の周囲を型枠11で覆い、その後、型枠11内にグラウト材12を流し込めば、容易にかつ正確な位置にライナープレート6を設置することができるとともに、このライナープレート6は基礎ボルト4側に固定されているため、グラウト材12から浮き上がることはない。

3

【0018】ところで、上記実施例においては、基礎ボルト4を3本として説明したが、勿論、3本に限定されるものではなく、例えば4本またはそれ以上使用してもよい。なお、基礎ボルトを4本以上使用した場合には、ライナープレートをより安定させることができる。

【0019】

【発明の効果】以上のように本発明の設置工法によると、基礎側に固定された基礎ボルトに、基礎金物に固着された位置決め板の穴部内を挿通させるとともに、この位置決め板の上下をナットにより締め付けることにより、基礎金物を基礎ボルト側に固定するようにしたので、上記ナットを微調整することにより、基礎金物の高さ、水平度などを容易に調整することができ、また基礎金物自体は基礎ボルトに固定されることになるので、グラウト材から浮き上がるのを防止することができる。

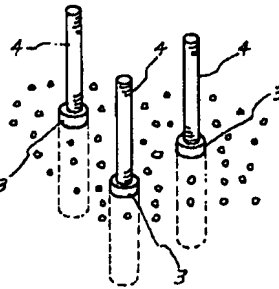
【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の設置工法における基礎の表面を示す斜視図である。

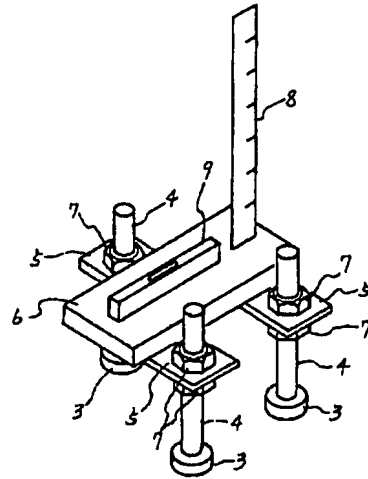
【図1】



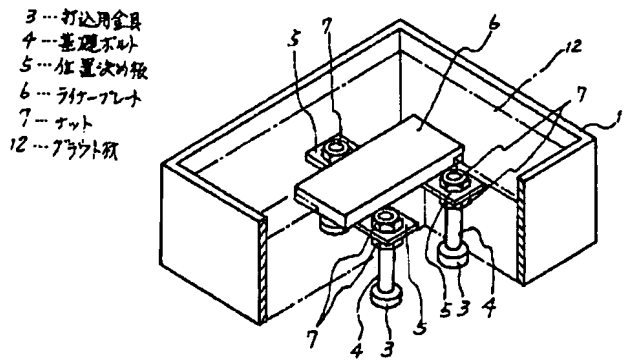
【図2】



【図4】

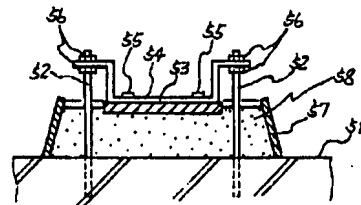


【図3】



3...打込用金具
4...基礎ボルト
5...位置決め板
6...ライナープレート
7...ナット
12...グラウト材

【図5】



【図2】同実施例の設置工法における基礎ボルトの固定状態を示す斜視図である。

【図3】同実施例の設置工法におけるライナープレートの設置状態を示す斜視図である。

【図4】同実施例の設置工法における型枠の設置状態を示す斜視図である。

【図5】従来例の設置工法を説明する断面図である。

【図6】従来例の設置工法を説明する断面図である。

【符号の説明】

- | | | |
|----|---|----------|
| 10 | 1 | 基礎 |
| | 2 | 穴 |
| | 3 | 打込用金具 |
| | 4 | 基礎ボルト |
| | 5 | 位置決め板 |
| | 6 | ライナープレート |
| | 7 | ナット |
| 12 | | グラウト材 |

(4)

特開平6-41989

【図6】

